

つくしだより



令和6年4月号

東京都精神保健福祉相談事業講演会

都連理事補佐 寺澤 元一

日時：2月24日午後2時～4時

主催：東京都精神保健福祉民間団体
協議会（オンライン形式）

テーマ：共に生きる社会の実現に向けて～日本の精神保健分野のこれまでとこれから～

講師：藤井克徳先生（NPO法人日本障害者協議会代表）



藤井先生は、今回の講演で、自らの視覚障害で身に備わったという物事を推し測る鋭い「ものさし」で、我が国の精神障害者政策の問題点を整理された上で、障害者権利条約（以下「権利条約」と略）を紹介され、権利条約が今後の精神障害者政策の方向の決め手になると指摘されました。我々にとり非常に示唆に富む貴重なお話でした。以下、権利条約に関するお話に絞った抄録です。

一、日本の精神障害者政策は、次のとおり特徴づけられる。

- ① 変わらない精神科の医療中心主義・入院中心主義。精神科病床数は先進国トップで長期入院の温床。患者の生きる力を萎えさせている。
- ② 福祉政策・労働政策は、いくらかの発展はあるが、未だ不十分。
- ③ 民法の家族扶養義務の下で、当事者の扶養は家族依存型。

精神障害者政策の基調は、従来、社会防衛と優生の政策であり、精神障害者の人権は侵害され、福祉は常に後回しであった。精神科特例は、精神科医療の質を下げ、宇都宮病院や滝山病院の事件をもたらしした。二、近年の障害者基本法や精神保健福祉法等の発展は、権利条約によるものである。国連は、ナチス・ドイツの優生政策で多くの障害者が犠牲になった反省から、障害分野で人権規範を築こうとした。1981年の国連障害者年は、「完全参加と平等」を標榜し、「障害者を締め出す社会は弱くてもろい」、「障害者は特別な市民ではない。特別なニーズを持つ市民である」という新しい考え方を打ち出した。その後2006年の権利条約の採択に向けて多くのドラマがあった。国連で初めて障害者団体に発言の機会が設けられ、有名な「私

たち抜きに私たちのことを決めないで」の声が議場に響き渡った。

権利条約は革新的で感動的な条文が数多くある。例えば、障害者に対する偏見や差別に「戦う」ことを求める。障害者と他者との平等に関し、社会の側から障害者の立場に歩み寄ることを求める。新たな障害観として、従来の「医学モデル」から、障害は社会や環境次第で変わるという「社会モデル」への転換、過度な負担にならない範囲で個々の障害者に対し「合理的配慮」を求める。

三、日本は、慎重な過程を経て2014年に条約を批准した。2022年初の条約履行の審査で、日本は様々な厳しい勧告を受けた。勧告は、精神科病院での虐待通報の仕組み、被害者の救済策や加害者の起訴・処罰を求めたほか、非自発的入院の廃止、グループホームや特別支援学校等の解体まで求めた。これには当惑する反応もあろう。しかし、精神科病院等の外観は変わっても、問題の本質は変わっていない。勧告はその本質を変えるべきだと求めている。

我々は、羅針盤である権利条約が示す方向を見失ってははいけない。

2023年度第二回多摩ブロック会議報告
都連理事補佐 池田 正

2024年3月9日(土)、第二回多摩ブロック会議が、府中市立片町文化センターで開催され19単会31名が参加。

◆会長報告

① 滝山病院事件に対し、昨年3月以降都連として滝山病院への抗議文や東京都への改善・陳情等行い、10月には、東京都議会本会議で全会一致趣旨採択された。

◆都連からの報告

① 東京つくし会の単会数は、この5年間で10%減、登録会員納入会費は10年間で年間90万円程度の減となっている。事務所家賃の大幅削減や事務員定年前倒しによる人件費減等で、辛うじて、特別積立金の取崩なしで収支している。各単会の事情もあると思うが、一層の登録会員の増をお願いしたい。

② 2月17日、第二回「病院家族会交流会」を開催し、7家族会12名が交流した。

③ 単会訪問活動は、17回、延べ293名が懇親した。

④ 滝山病院事件の顛末と都連のこれまで対応してきた経過報告があった。経営陣の早期退陣は当然として、「入院患者の退院支援がなかなかすすまない」、「身体

合併症の治療ができる公的病院がない」、

「新たな経営陣が利益優先かつ医師法等に違反した虐待行為」をいかに払拭した新たな病院づくりに期待したい。

⑤ 2024年度評議員会は、6月21日(金)調布市文化会館たづくり映像シアターで開催する。

⑥ みんなねっとから能登地震災害義援金の募集依頼あり。各単会で協力願います。

◆単会からの活動報告

・日野いずみ会(会員数97名、東京つくし会登録会員数40名)は、市や社協等から年間16万円の補助を受け、精神保健福祉の中核団体として活躍している。
・小金井あじさい会は家族SSTをルーチンワークにしている。市から年間8万円の補助を受け、地域活動支援センターや地域包括ケアシステムの構築に寄与している。

◆協議事項

① 2024年度の家族会訪問希望調査を行います。(5月末までに事務局提出)

② 次回ブロック会議の日程
第一候補 8月31日(土)
または8月24日(土)か9月8日(日)

場所未定午前10時より午後4時

2023年度第二回23区ブロック会議報告
都連理事補佐 寺澤 元一

日時 3月17日午後1時半〜4時半
会場 東京都戦没者霊園会議室
出席者 15単会19名

◆単会からの報告

(1) アンケート回答に基づき、各単会から報告がなされた。注目は、区のアウトリーチと福祉手当の支給状況であった。

(2) アウトリーチについて、区下の保健所、病院、機関相談支援センター等いずれかの機能により実施されていると明示的に回答したのは6件。

(3) 福祉手当については、支給があると回答したのは13件。月額数千円から一万円程度まで区毎にバラツキがあるが、いずれも精神障害者保健福祉手帳一級のみを対象としており、2級を対象としていると明示した回答はない。

◆協議事項

(1) 2024年度要望の取組みについて、「令和7年度(2025年度)東京都予算要望項目(案)」の各項目につき説明。

① 慢性の身体合併症のある精神疾患患者の病床確保・民間病院では困難。都立病院での積極的な受入が必要。

② アウトリーチ拡充で精神科医療に繋げ

ること…実施状況が具体的に不明なため、アンケート調査を実施

③ 思春期における精神疾患の早期発見のための事業…パンフレット等による早期発見等と共に予防事業も必要。

④ 人権を尊重した精神科医療の充実…民間病院の人員体制の強化が必要。

⑤ 精神障害者へも福祉手当を支給…区での独自事業のためバラつきあり。都条例の不備を改正する必要がある。

⑥ 重度心身障害者医療費助成制度（マル障）を2級手帳所持者にも対象を拡大

⑦ JR等の交通運賃割引を精神障害者にも適用

⑧ 精神障害者の都営住宅入居基準の緩和…単身者には細かい入居基準があるため基準緩和が必要。

⑨ 家族会活動支援…東京つくし会事務所家賃の助成が必要。

以上の項目以外に、単会から、区宛要望について区当局から都宛要望追加回答があったことに対し、都と区では行政事務の役割分担が異なるため、確認と調整が必要と回答。

(2) 次回ブロック会議の日程

8月31日(第一案)、9月中旬(第二案)、

9月8日(第三案)を検討中。

◆その他

(1) 能登半島震災義援金の受付につき、

みんなねつとで募金の受付を行っているが、各単会独自で判断し、募金する場合には各自ゆうちょ銀行等を通じて募金されたい旨、都連としての対応を説明。

(2) みんなねつと全国大会について、本年10月12日(土)に北海道で一日実施される予定。2025年は京都府、2026年は長崎県開催の予定。



みんなねつと関東ブロック会長会議報告

都連会長 眞壁 博美

2月26日(月)の午後、東京都障害者福祉会館で、関東ブロック会長会議が開催されました。この会議は、年2回のペースで、関東1都6県の都・県連会長等が集まって、お互いの運動の交流をしたり、共通課題で連携して行動したりする会です。都連からは、三役と寺澤理事補佐の6名が参加しました。

議題は、

1, 各県連からの報告

2, 2023年度みんなねつと埼玉大会の振り返り

3, 精神障がい者への交通運賃割引の取り組みについて

4, 次回、会長会議開催担当県についてでした。

つくし会からは、滝山病院事件の報道を受けて都連としての取り組みを中心に報告しました。

埼玉県連からは、全国大会の当日参加者が、会場参加が341名、オンライン参加が285名、計626名だったこと。チケット売上は、692名で、物価高騰の中で、何とかトントンで大会経費が賄えたことが報告されました。

来年度の関東ブロック大会は、神奈川県連が開催することになっており、すでに6回の会合をもって準備しているそうです。日時…2024年11月14日(木)

会場…川崎市高津市民会館大ホール
メインテーマ…家族も当事者もそれぞれが穏やかな生活の実現を願って

また、2024年みんなねつと全国大会の開催地は北海道、開催日は、10月12日(土)の1日のみ。前日に、「べてるの家」見学会(定員50名)が予定されているとの報告がありました。皆様、今から、大会予定日は空けておいてください。

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために役立つ場になりたいと思っています。載せたい情報を毎月25日までに、つくし会事務所にメール(tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp)またはFAX(042-453-7534)までお寄せください。

【知っ得情報】東京都美術館「障害がある方のための特別鑑賞会」

東京都美術館では、普段は月曜日が休館日ですが、その月曜日に障がい者のための特別鑑賞会を開催しています。障がい者本人と介助者1名が無料です。障がい者だけでするのでゆったりと鑑賞することができます。

【デ・キリコ展】

開催日時 2024年6月10日(月)10:00~16:00(入室は時間指定制)

申込期間 2024年4月1日(月)~2024年4月22日(月)

申込方法 東京都美術館のウェブサイト(www.tobikan.jp) → アートコミュニケーション → 障がいのある方のための特別鑑賞会で検索する。又は葉書 〒110-0007 台東区上野公園 8-36 東京都美術館特別鑑賞会受付へ ・希望時間帯(①午前②午後③どちらでもよい) ・氏名 ・〒 住所 ・電話番号 ・介助者の有無 ・駐車の有無を記載して申し込む。

問合せ 電話 03-3823-6921 FAX03-3823-6920 特別鑑賞会担当

★ 賛助会費 ★

個人 (一口2千円)	27000円
団体 (一口5千円)	50000円
診療所 (一口5千円)	83000円
病院・診療所 (一口1万円)	400000円

計155,000円となりました。
誠にありがとうございます。

★ 東京つくし会 賛助会員加入のお願い

本会は、都内の家族会それぞれの会費収入の中から納められる年会費と賛助会員の皆様の年会費によって賄われており、賛助会の収入は貴重な財源になっております。つきましては、ぜひ本会の賛助会員になって頂きたく、何口でも結構でございますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

★ 講演会のお知らせ ★

○当事者とかかわりから見えてきた事と父親として、家族会での経験を通して思ったこと

日時 5月11日(土) 午後1時半~4時半
講師 東京つくし会副会長 植松和光氏
会場 文京シビックセンター3階

参加費 500円 要予約
申込 文京区障害者基幹相談支援センター
☎ 03-5940-2903

○対話の旅に導かれて
これからの精神科医療に
求められること

日時 5月22日(水) 午後1時半~4時
講師 森川すいめい先生(精神科医)
会場 高円寺障害者交流館

参加費 会員無料 一般300円
問合せ ☎ 090-4535-9663 080-1004-1197

編集後記

「恩師と再会」

高森先生の会がありますと言われ、ドキツとしました。先生には沢山お世話になりました。

子供が体調を崩したとき何が起きたのか全然分からず、保健所に駆け込みました。保健所の主任さんから「今日、高森先生の講演会があります、聞いてください」とのアドバイスがありました。何ですかそれはと、思いながらも、妻と二人講演会へ。初めて伺う事ばかりです。妻にこの先生に付いて行こうと言いました。妻も当然と決めました。この時から、先生の追っかけを遣りました。10箇所以上の講演会、そして事務所、個人相談にも伺いました。今、息子は一人でアパート生活です。40歳になりました。今回の講演も初めての時と同じメッセーじもありました。「あなたはわたしにとって大切な人、宝物だよと伝えましょう」、「生きているだけで立派です」、「共に濡れてほしいのです」、お願い上手にはなれませんでした。が、今はホッと一息ですが、まだ、分かりませんが、御高齢になられたと知りつつも高森先生を頼っている自分を感じます。又今回の講演で紹介された冊子「心の病は愛で癒す」は心に残ると同時に、家族にとっても力をいただけたと思います。

都連理事 大山 竹彦